

校内研だより

2024. 1. 9 文責 ○○

☆11月から12月にかけて、4人の先生方による授業提案がありました。研究協議のまとめについては、授業の指導案とともに【校務分掌＞校内研究】のフォルダに入っているので、ご参照ください。

【中学年ブロック：4年2組(○○総括教諭)国語「ごんぎつね」研究協議のまとめ】

- ・初めの感想を基に学習問題、学習課題を子どもがすべて作るのは難しい。教師のねらい、「つけたい力」が明確にあることが大事であり、子どもの「なぜ」と教師の「ねらい」がいつも一致するとは限らない。
- ・ごんへの手紙を書く活動、読む活動を設定したことで、「ごんの気持ちを読み取るんだ」という意識づけになり、書くことが苦手な子どもも進んで書いている姿が見られた。
- ・叙述を基に説明するようにしたことで、読む必然性が得られた。また、叙述を基にした発問をすることで、ごんの気持ちの想像が深まった。

【次回につなげたいこと】

- ・座席の工夫。話しやすい形態に。ペアの距離感が近いと安心して話し合える。
- ・「問い」をすべて子どもが作るのはやめる。(教材文の特性を考慮する)

【高学年ブロック：6年2組(○○教諭)国語「やまなし」研究協議のまとめ】

- ・初めの感想を基に学習問題を子どもが作ることで、学習への動機づけができた。
- ・やまなしという「題名」について、難しいからこそ友達の考えを聞き自分の考えに取り入れることができた。
- ・ワークシートを一枚の画用紙にしたことで学習を振り返りやすく、友だちの感想を聞いてから考えを書くことができるので効果的であった。

【次回につなげたいこと】

- ・子どもが叙述に基づいて発表した場合は教科書を全員で確認する。
- ・教師の発問で子どもの挙手が変わるので、交流が盛んになる発問をする。本授業では、「友だちの考えを聞いて、こんな風変わったよ。」という発問が効果的であった。

【低学年ブロック：2年1組(○○教諭)国語「紙コップ花火の作り方」研究協議のまとめ】

- ・指導者が意図的にグループ編成をして、どのグループも成功体験をしながら活動ができるよう工夫する。
- ・ワークシートを糊で貼るのではなく、マスキングテープなどを使って試行錯誤する中で付け外しができるといった工夫があるとよかった。
- ・最後のまとめでは、「前書き」「材料と道具」「作り方」「楽しみ方」の4つのまとまりがどのようになっているかをしっかりと確認できるとよかった。

【次回につなげたいこと】

- ・2年生の実態に合わせた情報量を見極めて提示していく。
- ・活動の課題意識をもって取り組めるようにする。

【高学年ブロック：5年1組(○○教諭)国語「大造じいさんとガン」研究協議のまとめ】

- ・向かい合い、密着して話し合う座席の形がよかった。また、前に教卓がないことで児童が黒板に出やすく、一体となって学びに入り込める場の設定となっていた。
- ・心情円を色分けしたことで、中心人物の心情の変化を視覚的に読み取りやすくなった。また、心情円は考えの相違もとらえやすいので、話し合いの争点を生み出すことにもつながった。
- ・心情円の作成に時間がかかりすぎてしまうため、時間短縮する工夫が必要。

【次回につなげたいこと】

- ・評価規準を満たしながら、児童の疑問(思考)に寄り添った授業展開。

【第5回校内研究全体会：6年1組(〇〇教諭)国語「やまなし」研究協議のまとめ】

☆グループ協議

成果	課題
・ワークシートから子どもの意見が引き出せている。 ・友だちの意見と自分の考えを比べることができており、考えの変容の時間があった。	・考えが変わった、変わらないにこだわらず、理由に深める手立て（発問・板書・反応の仕方）があると良い。

☆次につなげたいこと

- ・成果の内容については、今後も継続できるように子どもの実態に合わせた授業づくりをし、単元と単元のつながりを意識していく。

課題の内容については、子どもの考えの変容を見とれるように、子どもが書いた考えを残す。また、児童の意見や考えを共有化し、それらの関連付けを図ることで自分の考えにより深まりを持たせるようにしていく。

《〇〇指導主事からの指導助言等》

○叙述に基づいて

- ・物語の全体像を掴むには、叙述・表現をとらえる必要がある。題名・5・12月など、宮沢賢治の表現を丁寧に扱っていくことで、より深く教材に取り組める。そこには教師が意図を持って指導することが必要である。また、国語科では叙述に基づいた考えの表出をすることが重要。たつぷりと時間をとって考えを形成し、そこからさらに広げていき、本文に返って根拠を明確にし、読みを深められるようにする。

○子ども主体の授業を目指して

- ・学び合い、高め合う、質の高い言語活動。
 - ① 変容の自覚がわかる場面の設定……書く、話すなどの場を作る。
 - ② 対話によって考えを広める・深める場面の設定
 - ③ 「考える場」と「教える場」の設定……教師の押さえない指導は必ず入れる。

推進委員会で話し合ったこと【12月19日】

○次年度の外部講師について

- ・次年度は〇〇〇〇先生にお願いすることになりました。

○購入品について

- ・文科省の国立教育政策研究所が出している『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を6冊（国語、算数、理科、社会、生活、総合的な学習の時間）購入しました。

職員室後方のキャビネット下段、校内研のところにしています。ぜひご活用ください。

○今後の校内研について

- ・ブロック研： わかば4組 1月17日（水）2校時前半
 2年2組 1月22日（月）3校時
 全体研： 4年1組 1月24日（水）5校時
- ・指導案の配付はお早めに！授業日ギリギリだと参観前に見られません。
- ・下中小クラスルームに校内研振り返り用のスプレッドシートを用意したので今後はそれを活用していきたいと思います。使い方は、次回1月24日（水）の全体会で説明します（協議にはクロームブックを持ってきてください）。
- ・指導案の最後にある成果と課題は、授業者本人がまとめるようにしましょう。